

研究の経過と概要

1、研究テーマ

思考力・判断力・表現力を育む国語科の指導～言語活動の充実を通して～

2、研究の経過と概要

東山梨地区国語科教育研究部会では、生徒の実態を踏まえて平成23年度より上記のようなテーマで研究を行ってきた。コミュニケーションツールの変化や人間関係の希薄化、情報があふれている現代社会において、生徒にとってより良い人間関係を構築していくための表現力や、自分で考え判断し必要な情報を取捨選択していく力が、今まで以上に重要なものとなってくる。国語科の果たす役割は益々大きなものとなっていくだろう。

本部会では、小学校・中学校の二部会に分かれての研究体制をとっている。それぞれの部会ごとの研究に加えて、夏季は小学校の授業を、冬季は中学校の授業を参観し合うことで、子ども達の発達段階に応じた指導方法を学び合っている。小中の連携を今後も深めていきたい。

3、今年度までの授業実践の経過

年度	授業実践の内容
25年度	<ul style="list-style-type: none">・登場人物の心情を読み取り、考えを交流しよう ～登場人物の言動から読みを深め、自分の考えを持つ力～ 「字のないはがき」を読んで、様々な描写から「父」の思いを読み取ることを目指した。「父」の視点から文章を書き換えることで、心情理解に迫ることができた。・登場人物の行動や考え方から人物像の変化を読み味わう ～ひとつひとつの言葉(描写)をもとに丁寧に読み取る力～ 「走れメロス」を読んで仲間と意見を伝え合う中で、自分なりの「メロス像」を書いた。交流をすることで得た新たな発見を、作文に生かすことができた。
26年度	<ul style="list-style-type: none">・小説を読もう～話のその後は？「物語の続きを考えてみよう」 ～読んだことを基に、仲間と感想を交流し、物語のその後を想像して書く～ 山川方夫氏の「夏の葬列」を題材に、場面ごと疑問点や気になった点を確認しながら、話の今後の展開を考える授業を行った。仲間の読みを知り、自分の読みをふり返ることができ、考えの根拠を文章中に求めることを意識させたことで、より丁寧な読み取りへとつながった。物語の続きを書くことは、心情の変化をしっかりと捉えておく必要があるため、深い読みをするためには、とても有効な手段であった。
27年度	<ul style="list-style-type: none">・「挨拶」を読み、意見を交流しよう ～意見交流から、自分の考えをまとめよう～ なぜ作者は「挨拶」という題名をつけたのか作者の思いを捉え、意見交流をし、自分の考えをまとめる授業である。「ワールドカフェ」という話し合いの手法を用い、生徒それぞれが持っている知識や考えなどを活用し、他者とのかかわりを通して自分の考えを深めることができた。授業のはじめに「わからない」と書いた生徒も、交流後に自分の考えを持つことができ、有効な手立てであった。

・「ワールドカフェ」の手法を用い、考えを広げて、文章を書く 「ヤクーバとライオン」という自主編成教材を用い、話し合いの中で自分の考えを広げ、自分の考えを文章に書き表すという実践。(本日提案)
--

4、今年度の研究について

今年度は、小学校・中学校それぞれ研究を進めてきた。研究授業については合同で行い、お互いの授業を参観し合って、学び合っている。9月には、小学校部会の授業を参観し、心情曲線を使ったクライマックス場面の読み取りについての研究を行った。中学校部会では、随筆「言葉の力」を扱った授業を、2月に公開する予定である。

5、本年度研究部員

部長 横森梨歌（塩山北中）

副部長 日野原裕子（山梨南中）

部員 奥山彩佳・岡田しおり（山梨南中）

丹澤基予子・一瀬ひとみ・糠信恵理香・岡沙矢佳（山梨北中）

武井善史（笛川中）

根岸喜久恵・数野透・佐々木梢・滝口和香子（塩山中）

佐久間潤・依田久幸（松里中）

指導助言 広瀬真次校長先生（塩山北中）

齋藤昌志校長先生（玉宮小）

渡辺良仁教頭先生（山梨北中）

本文

【概要】

本実践は、ティエリー・テデュー作の「ヤクーバとライオン」という絵本を読み、文章を書くことを目的としたものである。授業のはじめに、スライドを使って絵本を全員で読み（読み聞かせの形式）、「ヤクーバとライオンから何を学んだか」ということについて自分の考えを持った後、ワールドカフェの手法を用いて考え交流する中で、考えを広げたり深めたりすることができた。

第3学年 国語科授業案

授業者 元 松里中学校
杉田 由之

1. 単元名 「ワールドカフェ」の手法を使って、自分の考えを広げ、文章を書く
2. 教材名 「ヤクーバとライオン」講談社
3. 単元について

(1) 作品について

作者 ティエリー・テデュー 1955年、フランス南部ナルボンヌに生まれる。1994年、本書で「Prix sorcierres（ソルシエール賞）」を受賞。

訳者 柳田 邦男 1936年、栃木県生まれ。「マッハの恐怖」で大宅壮一ノンフィクション賞受賞。他の訳に「だいじょうぶだよ、ゾウさん」など。

内容 別紙参照

(2) 単元について

- ・ワールドカフェにより、自由に考えを述べることのできる雰囲気を作る。
- ・仲間の考えに触れることで、自分の考えを広げる。
- ・自分の考えをまとめて文章にする。
- ・互いの文章を読みあい、自分の考えを深める。

4. 指導計画と評価

(1) 単元目標

○A 話すこと・聞くこと 場の状況や相手の様子に応じて話す。イ

聞き取った内容や表現の仕方を評価して、自分のものの見方や考え方を深めたり、表現に生かしたりする。ウ

◎B 書くこと 書いた文章を互いに読み合い、論理の展開の仕方や表現の仕方などについて評価して自分の表現に役立てるとともに、ものの見方や考え方を深める。エ

(2) 評価規準

国語への関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	言語についての知識・理解・技能
①自分の考えを積極的に述べようとしている。 ②他のメンバーの考えを、真剣に聞いている。 ③自分の考えを的確に文章表現している。 ④文章を読み合い、自分の考えを深めようとしている。	①自分の考えを相手に伝わるように工夫して述べている。 ②他のメンバーの考えを、真剣に聞き、自分の考えとの違いを見つけている。	①自分の考えを構成や表現を工夫してわかりやすく書いている。 ②他の生徒の文章を読み、自分の考えを深めている。	①語句や漢字を正しく使う。 ②読みやすい文字を書く。

(3) 単元構想表

言語活動	書いた文章を互いに読み合い、自分のものの見方や考え方を深める。				
	指導事項	重点	学習過程	評価基準	時
自分の考えを書く	文章の解釈		・教師の朗読を聞き、内容を理解する。 ・自分の考えを持つ。	A 話す・聞く (1) ウ	1
	自分の考えの形成	○	・ワールドカフェを行い、自分の考えを広げる。	A 話す・聞く (1) イウ	
	自分の考えの形成		・話し合いによって広げた自分の考えを、文章に表現する。	B 書くこと (1) イウ	家庭
	自分の考えの形成	◎	・互いの文章を読み合い、論理の展開の仕方などについて評価して自分の表現に役立てるとともに、ものの見方や考え方を深める。	B 書くこと (1) エ	2

5. 本時の展開

1 日時・場所 平成28年2月3日(水)5校時 3年B組

2 本時の目標 ワールドカフェを行うなかで、自分の考えを広げる。

過程	学習活動	教師の支援及び指導上の留意点	評価
導入 5分	○本時の流れ確認する。 ○本時の課題を確認する。 「ヤクーバとライオン」から、「何を学んだか。」	○授業の説明。 ○課題の提示	
展開 6分	○「ヤクーバとライオン」を聞き、自分の考えを持つ。 ・自分の考えをプリントに書く。	○電子黒板を使って絵本を表示し、朗読する。 ○書けなくても良いことを伝える。	○ワークシート
8分	○本時のための班を作る。 ○小グループの中で意見交換する。①	○抽選で、班を作る。 ○時間を提示する。 ○紙の真ん中に「学んだこと」と書かせる。	○授業の様子
6分	○グループを移動して意見交換する。②		○授業の様子
19分	○最初のグループに戻り、意見をまとめる。③ ○黒板に書く。 ○発表する。 ○自分が書くのに参考になる意見をプリントにまとめる。	○書くのは誰でも良い。 ○発表は誰でも良い。 ○大切な部分だけを書き写す。	○授業の様子 ○発表 ○ワークシート
5分	○表紙の隠された文字が何か考える。	○ワークシートに書く。	
まとめ 1分	○「学んだこと」という題で、作文を書いてくることを伝える。		○作品

【成果と課題】

授業の様子

- ・生徒達がワールドカフェの手法に慣れており、くじ引きで決まったグループの中で活発な話し合いがなされていた。
- ・「ヤクーバとライオンから学んだこと」というテーマで話し合っていたが、話が盛り上がるにつれて、ヤクーバの行動の是非を問うような議論になったり、語り手の存在に話題がおよんだりグループもあった。議論が深まると同時に、話題がそれてしまったようも感じた。
- ・ホストが残り、他のグループのメンバーが訪れた際にも、説明がしっかりとできており、ここでも活発な議論が行われていた。

生徒の話し合いから出された考え

- ・「ヤクーバの行動は、他人のためなのか、自分の気高さのためなのか」
- ・「神という存在」
- ・「ライオンが語りかけたような声は、ヤクーバの心の声ではないか」
- ・「目先の利益にとらわれないことの大切さ」
 - ⇒でも、ヤクーバは本当にそれでよかったのか。
 - ⇒戦士にはなれないが、牛や村を守ることができた。人の知らないところで、村を守ることができた。牛を守ることに目的があるとしたら、それが結果的には名誉なこと。
- ・「強さだけでなく。優しさもないと生きていけない」
- ・「本当の強さとは」

グループ間での交流後の考え

- ・「他を思いやることが大切」
- ・「相手を思やると、必ず返ってくる」
- ・「周りに流されず、自分が正しいと思った選択をすることが大切。心の内を磨くことで、仁に近い人間になれる」
- ・「命を尊重し、名誉ばかり欲しがらない心を持つ。ヤクーバこそ本当の戦士」
- ・「地位や名誉も大切だが、『生きる』という根本的な生活を守る人も大切。大切なのはバランス」

【研究会より】

- ・話し合いの際、机上に模造紙を追ったことにより、より多くの意見に触れることができた。その一方で、書きながらの話し合いは、書くことに精一杯になってしまう場面もあった。
- ・最後、グループで意見をまとめたが、そうすると弱い立場の生徒の意見が消されてしまうようにも思った。最後の意見の扱い方を、どのように発表させるかを検討したい。
- ・読み聞かせの形式をとったことで、本文に返ることができなかったが、今回は「読むこと」の授業ではないので、自由な発想が生まれてよかった。